

キャリア・パス講演会を終えて

この講演会は、私たちに、以下の2点を気付かせてくれました。

- いったん大学を離れても、研究したいという気持ちがあれば、大学院が受け入れてくれるということ。
学部生の受講者が、こうしたことに初めて気が付いたと発言してくれました。
- 日本語が得意ではない人が出席していたならば、その人からの質問には（その人の母語は無理だとしても）英語で応答したほうが良いということ。
受講者の英語による質問に英語で応答した講師の姿や、出席者同士での英語によるコミュニケーションから、グローバルな時代の研究者には英語によるこうした対応も身に着けるべき重要なことだと改めて気付かされました。

女性研究者支援プロジェクト運営委員会副委員長
秋田大学大学院工学資源学研究所
坪井 ひろみ

交流会

講演後に行った交流会では、参加者同士が気軽に質問や相談をする様子や講師と参加者が英語で会話をする場面もあつたりと、和やかな雰囲気のなか参加者同士親睦を深めました。




参加者のみなさんからの感想

今後の進路の参考になる話を聞けたので、すごく良かったです。

野辺さんの多くの経験を紹介して頂き、研究者としても楽しめました。

少人数で質問がしやすく、アットホームな感じが良かったです。

主催：秋田大学 男女共同参画推進室 **coloconi** 

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 TEL：018-889-2260 FAX：018-889-3186
E-mail：sankaku2@jimu.akita-u.ac.jp HP：http://www.akita-u.ac.jp/coloconi/

平成25年度採択文部科学省科学技術人材育成費補助事業
女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

秋田大学「架橋型ソーシャルキャピタル
の形成による女性研究者支援」

秋田大学 女性大学院生・学部生のための キャリア・パス講演会



秋田県産業技術センター研究員 野辺理恵氏を講師にお招きし、「秋田で研究者として働く」と題して、ご自身の研究内容や、研究生活についてお話しいただきました。

平成26年11月10日に開催した
「女性大学院生・学部生のためのキャリア・パス講演会」の
イベントをもとに作成いたしました。

主催：秋田大学 男女共同参画推進室 **coloconi** 

講師のご紹介

秋田県産業技術センター
素形材プロセス開発部複合材料G
研究員 野辺 理恵 氏

【プロフィール】

秋田県立大学機械知能システム学科卒業後、民間企業（機械開発・設計）、青年海外協力隊、大学嘱託職員（事務系）等を経て、秋田県立大学大学院機械知能システム学専攻（修士課程）へ入学。修了後、大学嘱託職員（教育実験補助）を経て2013年4月より秋田県産業技術センターに勤務。



秋田県産業技術センターと研究内容について

秋田県産業技術センターは、秋田県産業の活性化と持続的な発展を技術面からサポートする秋田県の公設試験研究機関です。

秋田県産業の振興と雇用確保への貢献のために、輸送機、医療機器、電子デバイス、環境・エネルギーの4産業を核に、研究員がそれぞれのテーマで研究しています。

研究テーマ ～ 超臨界発泡射出成形法による軽量化と高強度化～

野辺氏は複合材料グループに所属し、繊維強化プラスチックの超臨界発泡射出成形を行い、軽量かつ高強度化となるプラスチック成形加工技術の確立を図っています。その技術を最終的に秋田県の輸送機産業に適応させたいという目的で研究をされています。

* 研究生活 *

始業	8:30	終業	17:15
日々の業務	実験	設備利用 指導・相談	事務作業
その他の業務	【出張】 ・技術調査（展示会、企業訪問など） ・学会発表 ・公設試の会議		

工学系の研究をしているため、周りの研究者の9割は男性ですが、研究生活において女性だからといってハンディはありません！女性が少ないとすぐに名前を覚えてもらえたり、女性への対応も親切なので、困ることよりも得をすることのほうが多いです。大事なことは「自分がどうしたいか」ということだと思います！



私が考える修士以上の学位取得

「修士以上の学位を持っていると、研究・学会発表・論文執筆、これらを経験しているので、基礎的知識や能力があり、研究職に就いた時にある程度の即戦力として期待されます。将来、研究・開発系の仕事に就きたいならば大学院は必須。大学院で専門性を身につけることが自分にとってプラスになります。」



野辺理恵さんにインタビューしました

Q 現在の職業に就かれたきっかけを教えてください。

A 秋田で働きたいと考えていたときに、研究職の採用予定があると声を掛けていただき応募しました。大学院で行っていたプラスチック複合材料の研究と関わりのある仕事がしたいと思っていたところ、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）研究員の募集だったので迷わず応募しました。院生時代に実験で今の職場に出入りしていたので、センターの雰囲気を知っていたことも応募を後押ししたと思います。

Q 研究の魅力や、研究者になって感じたこと（研究生活についてなど）を教えてください。

A 研究職というと白衣を着て、試験管を手に行っているイメージが持たれています。しかし、私の場合は作業服を着て、ハンマーやドライバーを持ち、手や作業服は水・油などで汚れています。毎日の実験は繰り返して、データ整理でPCに向かって作業も地味で、何とも味気のない仕事かもしれません。でも、研究はやればやるほど知りたいこと、やりたいことが増える終わりのない仕事で、だからこそ面白いのだと思います。学生時代に「趣味は研究です」と仰った先生がいました。私はまだまだですが、そう言えるようになっていきたいと思っています。

Q 子供のころになりたかった職業や憧れていた職業は何でしたか。また、それが現在の職業と関係した部分はありますか。

A 子供の頃は、テレビ番組の影響で医師になりたいと思っていました。私の努力が足りず医学部に合格することはできませんでしたが、大学での素晴らしい方々との出会いが研究の魅力を私に教えてくれました。卒業研究が面白くなってきた頃、「研究職に向いていると思いますよ」と先生から言われたことが研究者を目指した最初の動機です。大学時代を一緒に過ごした友人とは今も仕事で関わることもあり、刺激を受けています。

Q 研究者を目指す女性大学院生・学部生の皆さんへのメッセージを一言お願いします。

A 私は学部を卒業してからの10年、様々な経験をしてきました。大切なことは自分の意思を持つことだと思います。研究者になりたいのであれば、どんな状況でもその目的を諦めないことが大事です。その時は研究とは関係ないと思える出来事や出会いが、研究への道を開いてくれることもあります。